

平成 24 年度 工芸技術記録映画

竹工芸

—勝城蒼鳳のわざ—



我が国の竹工芸は、強靱で弾力性に富む豊富な種類の竹を材料に、簡素な素材美をいかんなく発揮させながら編組等の技法によって造形するものである。この映画は、重要無形文化財「竹工芸」保持者である勝城蒼鳳が、身近な自然の中から着想を得て「千集編摺漆盛籃「やすらぎノ花」」を制作する全行程を記録したものである。

企画 文化庁

製作 毎日映画社

◆勝城蒼鳳 (かつしろ そうほう)

本名 勝城一二 (かつしろ いちじ)

勝城蒼鳳は栃木県高林村 (現在的那須塩原市) に生まれた。幼少時より父から竹細工の指導を受け、長じては竹細工師の菊池義伊(きくちよしい)に師事、さらに竹工芸作家の八木澤啓造(やぎさわけいぞう)、斎藤文石(さいとうぶんせき)らに技法や表現について指導を受けた。その後も長年にわたり研鑽を積んで竹工芸の幅広い技法を体得し、自然界の様々な事象を主題に、独自の表現力を活かした作品を日本伝統工芸展等に発表し、高い評価を得ている。



昭和 9 年 栃木県に生まれる。

昭和43年 第15回日本伝統工芸展初入選

昭和47年 (現・公社) 日本工芸会正会員

昭和58年 第30回日本伝統工芸展東京都知事賞 作品「波千鳥編盛籠(なみちどりあみもりかご)「溪流(けいりゅう)」

平成 9 年 第44回日本伝統工芸展 NHK 会長賞 作品「柎割千筋流線文盛籠(ふわりせんすじりゅうせんもんもりかご)「瀬(せ)」

平成10年 紫綬褒章

平成17年 重要無形文化財「竹工芸」(各個認定) 保持者

■ 重要無形文化財「竹工芸」



竹工芸の技法は、細く割った竹材を編んだり組んだりして造形する編組物や、竹材を円筒形のまま用いる丸竹物等に分類される。素材の簡素な美しさと強靱で弾力性に富む特質を活かし制作する。

■ 素材づくり



竹ヒゴには、柎割と平割の二つの種類がある。今回、作品に使う竹ヒゴは、柎割 700 本、平割の縦竹 360 本。他にも多くの竹ヒゴを使用する。

■ 竹材 (真竹) の選定



栃木県大田原市、この辺りは古くから良い竹が取れた。真竹の切り出しは、竹の成長が止まり、安定している晩秋に行う。

■ 竹ヒゴづくり



銚を使い、厚さ 0.4 ミリの柎割の竹ヒゴを作る。刃先に全神経を集中させ行う作業は手わざの極みと言っても過言ではない。

■ 真竹の油抜き



苛性ソーダを加えた熱湯に竹を入れ真竹に含まれている油を抜く。油を抜き、乾燥させれば長期間保存できる。

■ 盛籠を編む



節のある柎割の竹を 36 本ずつ束ねる。竹ヒゴの中心に節を揃える。この節を「やすらぎの花」の雄しべに見立てる。花の花卉を二重、三重と重ね、竹の味わいを醸し出す。

■ 意匠構想



新しい作品の構想を練る。自宅の庭に初めて咲いた古代蓮をモチーフに「自然から得た感動」を表現する。テーマは「やすらぎの花」。竹を使いどの様に表現するか制作構想を練る。

■ 網代編み



縦、横、同じ竹ヒゴを使い、隙間なく目を詰めていく。竹ヒゴを 2 本とばし、2 本すくい編んでいく。時に、勝城は 5 本とび、6 本とびとその編み方を変えていく。

■ 青海編み



節の付いた平割の横竹3本を縦竹に編み込んでいく。節があれば、その分だけ編みづらく、折れやすくなるが、勝城は、それでも節のある竹を使う。

■ 盛籃の形を決める



湯に浸した盛籃は柔かい。最終的な形、輪郭、高さを慎重に決めていく。

■ 盛籃を二重に編む



盛籃を作業台から外し、逆さにして、青海編みで編んでいく。

■ 摺漆



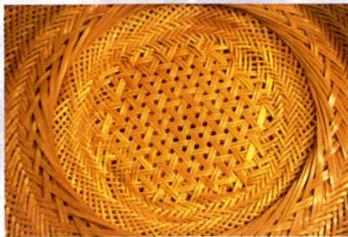
乾燥した盛籃を漆で仕上げていく。竹の美しさを引き立てる為に漆塗りを行う。

■ 高台を整える



全体の形を決め、竹の縁を付け高台を整える。

■ 鉄線編み



高台の裏は、鉄線編みで仕上げた。花の鉄線に似た雰囲気から、この名がある。

■ 染色



編み上げた盛籃を染める。編みには、様々な竹ヒゴを使った。それらの竹ヒゴは微妙に色が違う。この染めで、同じ色に染め上げる。

完成作品

千集編摺漆盛籃「やすらぎノ花」



ひごを束ねて編む編み方を勝城は千集編みと名付けた。



花を辿れば、やがて編みは迷路のように重なる。

黒い節が、花の花芯を鮮やかに表す。やすらぎの花は咲いた。

撮 影 協 力

東京国立近代美術館

栃木県立美術館

那須野が原博物館

福田 勝

スタッフ

製 作 真島 和好
監 督 黒崎 洋一
助 監 督 木村 将彦
撮 影 佐々木博司
照 明 山田 和夫
録 音 石崎 明
撮影助手 小金沢輝明
藤澤 敏之
助 手 並木 智絵
音 楽 山崎 茂之 (音響企画)
M A 門倉 徹 (東京テレビセンター)
ネガ編集 幸地 甫之 (幸地編集室)
タイトル 鶴岡 秋育
制作デスク 橋本 淳

ナレーター 田中 泯

題 字 勝城 蒼鳳

撮影機材 ナックイメージテクノロジー
現 像 YOKOCINE D.I.A.